



光る知性 豊かな心 強い意志

南 中 生

長井市立長井南中学校
令和 8年 10月 23日
校長 柿 崎 円

合唱コンクールスローガン

Crescendo

～挑む心・響く歌声・広がる絆～

合唱への取り組みをとおしてこんな南中生になろう！（目指す姿）

★「うたごえ」を南中フ라이ドとして誇りを持つ

自分たちの歌声に誇りを持てるようにする。

★クラス、学年の絆・団結力の向上

クラス、学年で協力し、お互いの思いを一つにし、絆を更に深められるようにする。

★自分から行動し、お互いを認め合う

練習時間を確認し、行動したり、あいさつ、返事を自分から大きな声でしたりする。仲間のがんばりやよさを認め合う。

10月30日の合唱コンクールに向け、実行委員会からは合唱スローガンと目指す姿が示され、南中生は毎日一生懸命合唱練習に取り組んでいます。メロディを口ずさみながら教室移動している生徒の姿もあります。合唱を楽しんでいる様子、コンクールに向けてクラスが団結しようとしている様子が見られます。本番当日、多くの方に会場に足をお運びいただき、青春のハーモニーをお聴きいただきたいと思います。

発表順	1 学年	2 学年	3 学年
学 年	空は今	結	手紙
1	1 組 時を越えて	2 組 ほらね、	1 組 証
2	4 組 COSMOS	4 組 ふるさと	3 組 栄光の架橋
3	2 組 旅立ちの時 ～Asian Dream Song～	3 組 あなたへ ～旅立ちに寄せるメッセージ～	4 組 青い鳥
4	3 組 マイバラード	1 組 キミのもとへ…	2 組 友～旅立ちの時～



平和へのメッセージ

～長井市戦没者追悼式～

10月17日（土）長井市戦没者追悼式が長井市民文化会館で行われ、
さんが平和への思いを堂々と発表しました。

「偲ぶ」

さん

家でニュースをつければ、ロシア、ウクライナ、イスラエル、パレスチナ、途切れることなく流れてくる争いの情報。「なぜこんなにも紛争は終わらないのだろう。」そう感じた経験は誰にでもあると思います。しかし、今を生きる私たちは、これを本当に自分事としてとらえられているでしょうか。

私の高祖父は、大日本帝国陸軍航空部隊として昭和二十年三月にフィリピンのパラワン島へ出征しました。当時は日本軍が組織的戦闘を維持できなくなり、多くの人が飢餓やマラリアなどの病気で極度の貧弱状態に陥ったと聞いています。今や「世界で最も美しい島」「最後の秘境」と称されるパラワン島で、約一週間の戦闘の末、高祖父は亡くなりました。

出征が決まった時、まわりの人たちも覚悟はしていたかと思いますが、一週間足らずで亡くなるという厳しい現実をすぐに受け入れることができたのか、本人はどんな苦しみを抱えて毎日生きていたのか、想像するだけで胸が痛みます。必ずしも日本が勝てる状況ではないとわかっているのに送り出さなければいけない辛さ、しかし自分だけではなく世の中全体がそういった辛さを抱え包み隠しながら名誉として受け取らなければいけない葛藤、自分たちにはどうすることもできない無力感、本音を言えない歯がゆさ、そんなもどかしい中で生きていくのは、どれだけつらかったことでしょう。

毎年お盆になると家族で行くお墓参り。その墓誌に刻まれた高祖父の名前に当事者意識をもって想いを馳せることは今までありませんでした。ですがこの話を聞いてからは、自分の中で戦争に対する解像度が上がった気がします。国語の授業で取り組んだ石垣りんさんの「挨拶—原爆の写真によせて—」という詩では、高祖父と筆者の戦時中の思いを重ね国同士の争いによって大切な多くの命が簡単に巻き込まれてしまう残酷さを実感しました。

私は、戦争に対していいイメージは全くありません。当時の国家に翻弄された国民が幸せだったのか、私が想像する限り、そうではなかったように思っています。

戦争を経験した人が年々減少していくこれからの時代、私たちは過去の事実を正しく学び、その記憶を自分事として捉える必要があると思います。過去の戦争を知ることは、「なぜ戦争をやめなければいけないのか」という問いに向き合うためにとても大切です。戦争について考えることは未来の平和を守ることに必ず繋がります。相手の考えを理解する意欲をもって意見交換をし、平和とは何かをまわりの人と共有していきたいと思います。

今まで戦争によって亡くなられた方々、心や体に深い傷を負われた方々へ、「二度と戦争を繰り返さない」と約束し、一日一日を大切に生きていきます

